

新しい生活文化を発信する



# アム

今号の主な内容  
2・3面 山田昌弘さん(中央大学教授)に聞く／現代結婚事情  
農業後継者たちの「婚活」  
4面 立川・この人／インフォメーション

3/10 No.27

2011(平成23)年  
2月20日(9月・3月)発行

立川市ホームページ

発行／立川市女性総合センター  
生活安全課 男女平等参画課  
〒190-0012 立川市曙町2-36-2  
☎042-528-6801 FAX042-528-6805  
e-mail:seikatsuanzen@city.tachikawa.lg.jp  
danjobyoudou@city.tachikawa.lg.jp  
http://www.city.tachikawa.lg.jp/

## 新成人に聞きました

1月10日 成人を祝うつどい(立川市市民会館)



### 何歳で結婚したい?

女性

87名

男性

59名

26名

0名

30代で

40代以上で

36名

4名

合計 247名にアンケート

お金を共有したくない女性

無理! 絶対無理男性



調べてみました

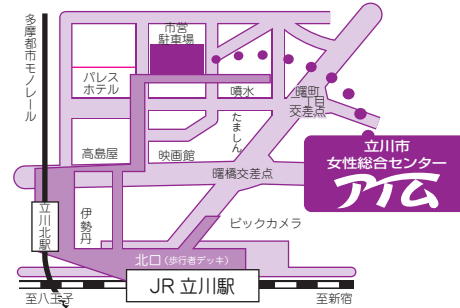
## 現代結婚事情

自分の将来についてしっかりした考えを持ち真剣に答えてくれる姿が印象的でした



この印刷物は再生紙を使用しています

### アイムインフォメーション

お問い合わせは、女性総合センターへ  
☎042-528-6801

### 生活安全課



### 男女平等参画課

#### 平成23年度 市民参加事業(予定)

男女平等参画社会を実現するため、フォーラムや講座、広報紙など、さまざまな事業を予定しています。  
くわしくは、4月10日号の「広報たちかわ」かホームページ、女性総合センターへ。

#### 市民企画活動事業(募集)

男女平等参画の実現に向けた講座やワークショップなどを、主に市民で構成する5人以上の団体、グループに企画・運営していただく予定です。

#### 情報紙「アイム」(編集委員募集)

市内全戸に配布している女性総合センターの情報紙で、市内在住・在勤・在学の編集委員が紙面の企画・取材・執筆などを行っています。23年度は年2回(9月・3月)発行予定・発行ごとに10回程度開く編集会議に参加していただきます。

#### 第3回たちかわ 6月14日(火)～6月26日(日) 男女平等フォーラム テーマ「絆」

##### 一たちかわ男女平等フォーラム・シンポジウム事業ー ●「絆」について女性の主張を募集します

アイム登録団体により「第3回たちかわ男女平等フォーラム」を開きます。今年のテーマは「絆」。家族や地域の絆が薄れている今、身近な「絆」を見直してみたいと思います。それに伴って、「絆」についての女性の主張を募集します。家族との絆、地域での絆、社会的な絆など女性たちが日ごろ体験し、考えている「絆」について、原稿をお寄せください。優秀作はフォーラムで発表させていただきます。

##### 【募集要項】

テーマ:「絆」に関してなら何でも  
字 数:800字  
締 切:5月10日(火)

(優秀作は6月25日のフォーラム・シンポジウムにて発表させていただきます。)

●「絆」について俳句、短歌、川柳、絵手紙も募集します  
フォーラム期間中、アイムで展示いたします。ふるってご応募ください。

立川市  
男女平等参画

### ●終末期患者の心のケアとは?

終末期にある患者さんは身体的な痛みと同時に心に痛みを抱えます。「なぜこういう病気になるのか」「なぜ私が」という絶望的な気持ちや先への不安、疎外感などに苦しみます。これらの痛みは医療では解決できません。私たちはそうした患者さんの心に寄り添い、少しでも癒す、お役に立ちたいと思っています。具体的には患者さんの気持ちをつなぎます。

ちに寄り添い、話を傾聴することをしています。もう話ができない患者さんには呼吸を合わせる、手を握るなどしながら、その方の生きてきた人生に思いをめぐらせて寄り添います。一期一会の活動です。

また、介護者である家族の悩みや思いにも耳を傾けます。老々介護などで、疲れている方が多いですね。必要な場合には、医療・介護関係者に話をつなぎます。

●「心が癒された」の感謝が励みになって  
それで本格的に、大学で終末期患者の心のケアを学びました。心理学やカウンセリング、神学、コミュニケーションなど2百時間の講習と50回の実習がある中身の濃いものです。かたわら、病院で傾聴ボランティアもさせていたです。ボランティアですが、守秘義務

の壁があるなど、病院での活動に限界を感じ、今は、立川の在宅医療専門診療所と連携し、「ボランティアさくら」として、在宅の患者さんのケアをさせていたっています。●「ボランティアさくら」は、08年から創設準備をし、09年2月から活動を開始しました。ボランティアの担い手を養成する講座も行い、現在20名が会員登録をしています。在宅の患者さんのお宅に伺い、傾聴をさせていただく活動が主ですが、簡単な家事援助をする場合もあります。また、連携診療所の2階に

### おめでとうございます



立川市は平成22年、市制施行70周年を迎えました。それを記念して、12月1日の市制記念日に市と協働し、先駆的な地域振興活動を行っている市民団体等を対象に、その功績をたたえ今後の活動のさらなる活性化を期待して表彰を行いました。

その中で、アイム登録団体から男女共生社会をめざし活動をしている「アイネ」、食や環境やくらしをテーマに活動している「立川市消費者団体連絡会」、社会貢献活動を行っている「国際ソロプチミスト立川」の3団体が表彰されました。今後のますますのご活躍を期待しています。おめでとうございます。

## 立川・この人

### 『終末期の患者と家族の心のケアを担いたい』



ボランティア さくら  
代表 中村 克久さん

#### ●「ボランティアさくら」は?

130万人ですが、団塊世代がその年齢に掛かる時は180万人になるといわれています。病気のベッド数が増える可能性は低く、在宅で看取る場合が増えるでしょう。また、その方が経済的でもあります。そうした事態に備え、在宅医療をバックアップする体制を市民の力で整えていく必要があると思います。たとえば、共働き夫婦のところに同居することになったお年寄りが病気になる時、昼間の寂しさを癒す人は誰でしょう。私たちのような市民ボランティアが必要なのではないでしょうか。医療・介護の専門家と共に、民生委員やボランティアが連携し、一人の患者を支える体制を地域で構築したいですね。「ボランティアさくら」もより広範な活動を見据えて、NPO法人化の必要が出てくるかもしれません。そうなんても、あくまでも一対一の関係を大事にし、患者さんの心のケアを強く思っています。

#### 平成22年度アイム編集委員

情報紙「アイム」(No.27)は、次の市民編集委員と助言者の企画・編集でお届けしました。  
鈴木洋子・武江俊江・玉井公子・富永文子・OJ  
(助言者 原和美)  
次号(No.28)は、平成23年9月25日発行予定です。(敬称略)



# 結婚したい♡...けどできない？



立川市新成人へのアンケート(1面参照)では、84%が20・30代で結婚したいという回答でしたが、実際は未婚者が増えています(グラフ参照)。「今は、結婚したいけれど、できない人が多い時代」というのは中央大学教授山田昌弘さん。結婚にいたるまでの過程を「出会い」、「相互選択」、「結婚の決断」の三つに分け、すべての段階で自由化が進み、ライフスタイルが多様化したために、むしろ結婚しにくくなってきている時代だとか。えっ、それって何？ イマドキの結婚(難?)事情についてお伺いしました。



中央大学教授  
**山田 昌弘**さん

**プロフィール**  
専攻は家族社会学、感情社会学、ジェンダー論。内閣府・男女共同参画会議・民間議員他。2006年「格差社会」で流行語大賞トップ10受賞。「婚活」の造語者でもある。主な著書に、「パラサイト・シングルの時代」、「希望格差社会」、「「婚活」時代」(白河桃子共著)、「「婚活」時代の社会学」(編著)など多数。

## 先の見通しがないと結婚はできません



「若い人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

## 親にパラサイトしているから「待てる」でも落とし穴が



「昔は、女性の婚期をクリスマスケーキに例えていました。結婚への社会規範が強かった。今の70歳ぐらいの人たちの結婚率は99・8%です。結婚しなくては生きていけないのでした。」

「でも今は、そうした社会規範も弱く、親と同居しているからいい人と結婚できるまで待つことができます。いつまでも相手の条件を切り下げないで、むしろ「30歳まで待ったんだから、理想的な人じゃないと」と考えます。結婚相手を選ぶ自由が得られた反面、結婚できないリスクが生まれました。」

「子どもの頃から恵まれた環境に育って要求が高いし、親という方が楽なのかも。親の生活水準が高いので、取組が広がって、以前より出会いの場が増えました。」

## 立川での取り組みー農業後継者たちの「婚活」ふれあい交流会



立川市農研会 部長  
**小林 三郎**さん



「ふれあい交流会」は、はじめての出会いから、10年間にわたる縁を解決し、女性との出会いの場を始めたのです。出会いの場、を始めたのです。出会いの場、を始めたのです。

「ふれあい交流会」は、はじめての出会いから、10年間にわたる縁を解決し、女性との出会いの場を始めたのです。出会いの場、を始めたのです。出会いの場、を始めたのです。

「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

## 頼みの「婚活」もあまりあてにはならない!?

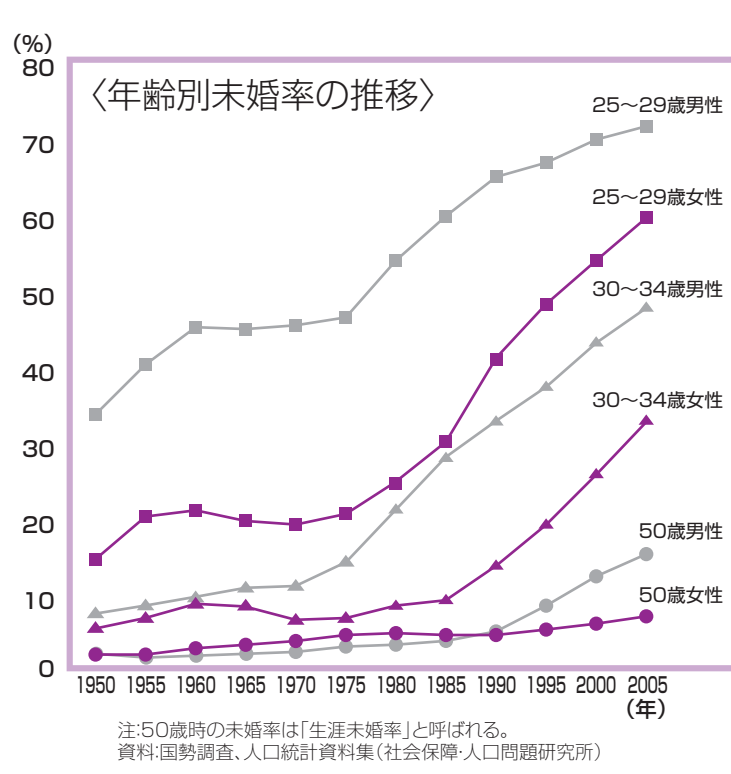


「お見合いを復活して、活路を開けませんか？」

「お見合いを復活して、活路を開けませんか？」

「お見合いを復活して、活路を開けませんか？」

「お見合いを復活して、活路を開けませんか？」



「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

「若人たちが結婚しない、できないと言われていました。親世代は「結婚に魅力がないからかしら」と思っていました。が、それだけではない。男女ともに、結婚にあたって期待する生活レベルがとて高いですね。その上、今でも男性が主に働いて家計を支えるという意識が、とりわけ女性に強くて、それが妨げになっています。」

## わたしたちの場合

### 【35才男性・未婚】

結婚したい気持ちがないわけではない。でも、仕事で会社を出るのが夜の12時過ぎで、出会いもない。これでは結婚したとしても、晩ご飯も一緒に食べられるわけではないし、意味が薄く、かといって、収入を維持するには、これくらい働かないと。前つきあっていた彼女とも、忙しくて会えないまま何となく自然消滅。昨年、弟が結婚して、親戚や親のプレッシャーが強まった。親を安心させたいとも思うが、何となく、このまま行きそうな気がする。

### 【36才男性・既婚】

結婚相手は同じ会社の人。互いに音楽が好きで活動していたので、コンサートに呼びあったりしていた。決め手は相性。結婚してからだが、家を出るようなケンカをしたことがあり、その時本音で話したことがよかった。まだ結婚していない友人たちを招いてパーティを開いたりして、それとなく紹介しているが、なかなか結婚にはいかない。お互いを認め合って尊敬することで、我を張り合わなくて済むとアドバイスしたい。

### 【33才女性・未婚】

結婚は子どもが産みたくなくなったらするつもり。相手は今つきあっている人と。まわりの同級生は合コンしているけど、理想が高すぎて相手が見つからない、仕事の方が面白いという人が多い。先日高校時代の友人5、6人と会ったが、誰も結婚していなかった。交際相手がいらない人も複数いた。ハワイとヒューストンで国際結婚していた友人が離婚して戻ってきていた。向こうは離婚がとて多いそうだ。

### 【30才女性・未婚】

地元の友人たちは、10代とか若くして結婚して離婚した人が多い。いわゆるバツ1、バツ2。

### 【36才男性・既婚】

結婚してよかったのは、自分と相手の価値観が違うこと。自分に不足している部分を補ってもらっていると思う。

30代の未婚者・既婚者に  
〈結婚のこと〉をたずねてみました

## 結婚氷河期を抜けだすために



「未婚化に待ったをかけるよい手立てはあるでしょうか。」

まず、若者の収入・雇用を底上げすることです。安定した収入が長期的に保証される見通しが立てば、結婚したい人は多いのです。

また、日本は新卒一括採用、終身雇用制度で、一度会社を辞めるとよい仕事につけない社会です。それが柔軟なワーライフバランスの実現を不可能にしています。育児休業

「未婚化に待ったをかけるよい手立てはあるでしょうか。」

まず、若者の収入・雇用を底上げすることです。安定した収入が長期的に保証される見通しが立てば、結婚したい人は多いのです。

また、日本は新卒一括採用、終身雇用制度で、一度会社を辞めるとよい仕事につけない社会です。それが柔軟なワーライフバランスの実現を不可能にしています。育児休業

## 出会いから結婚までのプロセス

|         | 1980年頃まで                                                           | 1980年頃以降                                                                                |
|---------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
|         | ●さまざまな規制<br>●自動的・画一的                                               | ●規制緩和による自由化<br>●個人の選択・多様化                                                               |
| 1 出会い   | 少ない→選びやすい<br>周りがセッティング                                             | 格差→多い人と少ない人<br>自助努力                                                                     |
| 2 相互選択  | 出会った人を好きになる<br>とくに基準なし                                             | 魅力のミスマッチ<br>好みの基準にうるさい                                                                  |
| 3 結婚の決断 | 恋愛=結婚という規範<br>結婚後のライフスタイルが画一的<br>↓交渉不要<br>経済的水準が予測可能<br>↓交際平均2年で結婚 | 恋愛と結婚の分離<br>結婚後のライフスタイルが多様化<br>↓交渉必要<br>経済的不安の増大<br>↑つき合っても別れるケースが多くなる。<br>なかなか結婚にいたらない |

山田昌弘・白河桃子 共著「婚活」時代より